

# ハナノキ15年ぶりに復活



①今年移植されたハナノキ(右の小さな木)とヒトツバタゴ(正面の大きな木)の保護への思いを語る加藤さん ②今年移植されたハナノキ=いずれも土岐市泉中窯町の白山神社で



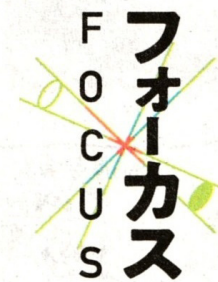
## 土岐の白山神社 今年4月に移植

土岐市泉中窯町の白山神社の境内にハナノキが約十五年ぶりに復活した。境内にはかつて巨樹が自生していたが、二〇〇七年に完全に枯死しているのを確認。その後、元の木と同じDNAを持つ後継樹も植えられたが、一〇年に虫害で枯れてしまっていた。神社の宮司らは「神社にとってハナノキとヒトツバタゴはご神木のようなもの。元気に成長してほしい」と願う。

(脇阪憲)

ハナノキはカエデ科の落葉高木。三月下旬〜四月上旬に赤い花を咲かせ、高さ三十センチになるものもある。国内では現在、東濃地域や愛知、長野県の一部に限られた場所に自生する。白山神社のハナノキは一九四二(昭和十八)年に、同じく境内に自生するヒトツバタゴとともに国の天然記念物に指定。ところが樹勢の衰えが確認され、土岐市や神社は、幹の補強や根

の活性化などに尽力したものの、〇七年六月に枯死が確認された。当時、市が行った調査によると、樹木に穴を開ける虫によって幹が食い荒らされ、木の内部が空洞化したことが原因と考えられている。希少な二種が共存する全国的に珍しい区画の保全活動は次のステージを迎えた。土岐市は〇八年、遺伝資源保存として採取してあった森林総合研究所林木育種センター(茨城県日立市)から挿し木によって増やした幼木の一本を譲り受

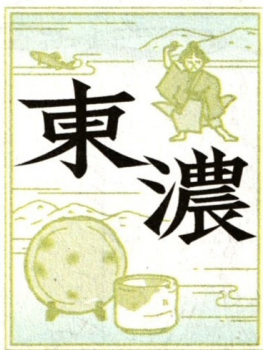


## 環境整備など努力重ね…ようやく

け、土岐市文化会館(泉町久尻)に移植。一定程度まで生育した株を神社に移す計画が実行された。ところが高さ三メートルまで成長したが二年後にこの株でも虫害による枯死が確認された。これ以降も生育環境の保全に手を尽くしてきた。市などはハナノキ復活への準備を進める計画案を作成。自生地保護に携わる岐阜大学の林進名誉教授らの意見を参考に、ハナノキの成長を阻害する周囲の草木を伐採するなど自生しやすい環境の整備に取り組んできた。こうした努力が実を結び、今年四月下旬、挿し木から育てた株を境内に移植。宮司の加藤幸直さん(左)は「二種の木は神社に伝承が伝わるほど大切なもの。また立派に成長するよう手を尽くしていく」と青々とした葉をつけた枝を見つめた。



神社の社務所に飾られているかつてのハナノキの写真



スズメ  
中津川版画の会 足立和信  
(恵那市長島町)

多治見支局  
〒507-0037  
多治見市音羽町4-39  
0572(22)3121  
Fax(23)5331

恵那通信局  
0573(26)2525  
Fax(26)5209

中津川通信局  
0573(66)1246  
Fax(62)0108

可児通信部  
0574(62)1501  
Fax(61)0270